



神苑の決意

主張

南北・米朝対話の進展と朝鮮半島の平和を心より祈念する——朝鮮半島の悲劇と日本——

「神苑の決意」 主筆 木川智

本号の内容 【主張】南北・米朝対話の進展と朝鮮半島の平和を心より祈念する——朝鮮半島の悲劇と日本——（木川智）：1／【連載】『倭姫命世記』を読み解く⑬天皇即位における首長の服属儀礼と中世の秘儀化（柳凜）：3／活動報告：5／記録沖繩戦 軍民・日米それぞれ視点から：11／お知らせ・編集後記：16

1部 1000円
（別途送料160円）

先月二七日朝九時二八分、北朝鮮と韓国 of 軍事境界線に建つ板門店の北朝鮮側の施設「板門閣」のドアが開き、北朝鮮・金正恩委員長が韓国側に向かって歩き始めた。そして軍事境界線にて金委員長を出迎える韓国・文在寅大統領と握手をし、金委員長が韓国へ入境した。

平成一九年（二〇〇七）、盧武鉉大統領と金正日委員長による首脳会談以来、一年ぶりの南北首脳会談、そして北朝鮮のトップが韓国に入境するという歴史的な南北首脳会談がこうしてはじまった。

昭和二五年（一九五〇）六月二五日、突如として北朝鮮は南進し、三年もの長きに渡る朝鮮戦争が始まった。戦争は同じ民族同士 of 南北に留まらず、アメリカを中心とする国連軍や中国軍が出動する大規模なものとなり、一つ間違えれば核戦争にすら発展したといわれている。そしていまなお戦争は休戦状態にあり、韓国は休戦協定に調印せず、戦争状態が続いているのである。

こうした朝鮮半島の悲劇の歴史に、日本は無関係といえるのであろうか。日本と朝鮮半島が古くから関わりがあることはいうまでも

なく、近代にあっては韓国を併合し、朝鮮半島は数十年のあいだ「大日本帝国」であった。そこに住む人々は帝国の民であり、元「大日本帝国」軍人としてBC級戦犯として裁かれた朝鮮人もいれば、傷痕軍人として長く苦しんだ朝鮮人もいる。そして日本の敗戦とともに日米ソなど各国の対応と迷惑のなかで朝鮮半島は南北に分断されていった。こうした事実を踏まえると、日本が朝鮮半島の悲劇の歴史に無関係ではなく、また無関心であってもならないといえる。

そもそも朝鮮戦争自体が日本と深い関わり